

会 告

日本鉄鋼協会行事案内

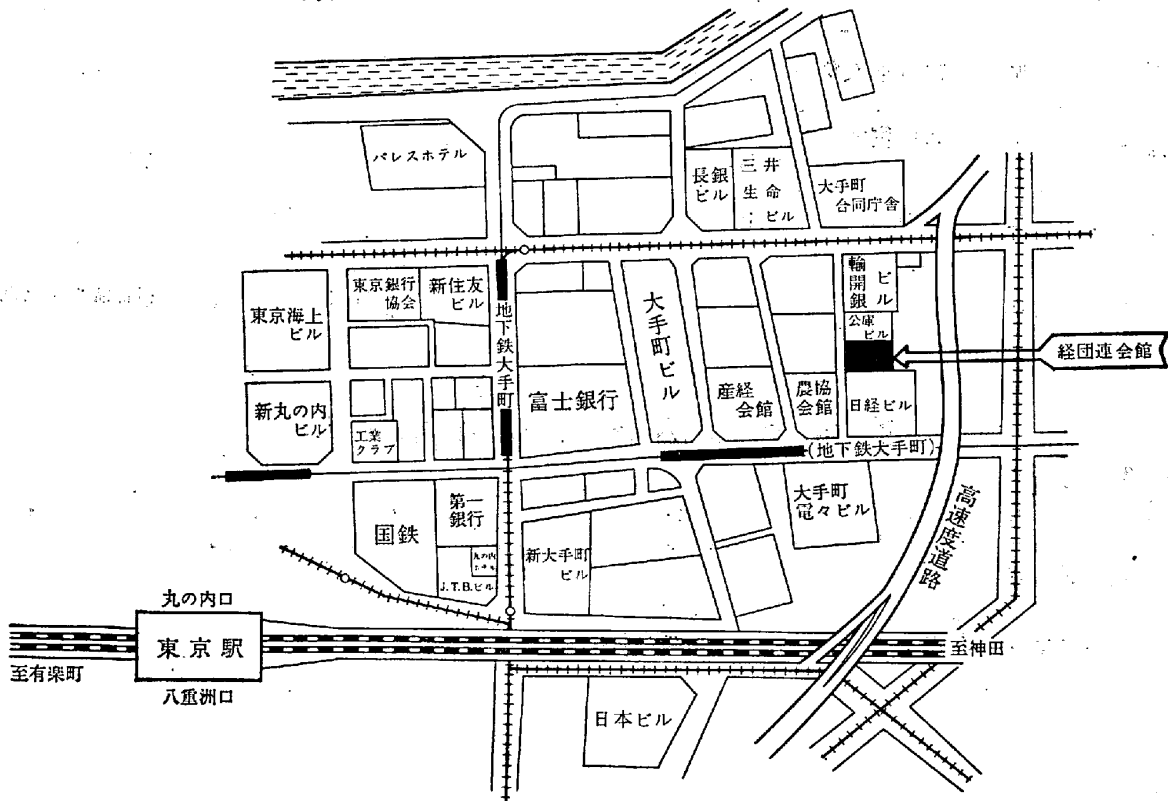
開催月日	行 事	申込締切	会告ページ
10月16-19日(日・月・火・水) 20日(木)	第72回講演大会(鉄鋼短期大学・尼崎) 第6回技術講座(大阪) 将来の製鉄法について 合金元素選定の考え方について		10月号N110
11月	第2種論文原稿締切日(第72回)	11月10日	10月号N111
11月	第1種講演申込および原稿締切(第73回講演大会)	11月15日	10月号N102
12月	第2種講演申込締切	12月15日	10月号N103
11月16-17日(火・水)	第7回技術講座 鉄鋼製錬に関する熱力学(東京)		10月号N110

事務所移転のお知らせ

本会はきたる11月3日(木)より下記に事務所を移転(略図参照)することになりましたのでお知らせいたします。

記

東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館 3 館
 電話 東京 279-6021(代) 電略 トウキョウ、ニホンテコ
 乗物 国 電 東京駅丸の内北口下車
 地下鉄 丸の内線、東西線大手町下車
 都 電 大手町、丸の内1丁目下車



第 73 回講演大会講演募集

第 1 種講演申込・原稿締切11月15日

第 2 種講演申込締切12月15日・原稿締切 2 月15日

本会は第73回講演大会を、来春4月5日、6日、7日の3日間、東京大学において開催することになりました。講演大会は第72回大会より講演募集方法を下記のごとく、第1種講演（講演論文提出）と第2種講演（講演概要提出）の2形式に分け募集いたしております。

第 1 種 講 演

講演大会で発表する予定の研究成果を講演論文寄稿規程に従った講演論文として提出し、発表するものであります。（討論講演論文もこれに準ずる）

第 2 種 講 演

講演大会で発表する内容を簡単に概要として提出し、当日に理論あるいはデータなど未発表の最新の成果を発表するものであります。講演は事後に講演論文寄稿規程に準じて投稿していただくものとしますが、一部依頼論文としてお願いする場合があります。

なお、概要は講演概要（前刷）としてオフセット印刷いたします。

本講演大会において講演発表をご希望の方は、下記「講演申込み上の注意事項」をご覧のうえ別記講演申込要領に従い、いずれかの形式で奮ってご応募下さるようご案内申し上げます。

なお上記二種類の講演を比較対照しますとつぎのようになります。

第 1 種、第 2 種 講 演 の 相 違 点

	第 1 種（従来のもの）	第 2 種（新しい方式）
内 容	すでに共同研究会、学振などで発表を終わっている論文でもよい。質的に高いものを歓迎。	応募の時までに他には未発表で極最新の研究。
原 稿 締 切	講演 4, 5 カ月前	講演 1.5 カ月前に原稿 (申込締切は 4 カ月前にカード提出)
講 演 前 刷	講演論文集（鉄と鋼通巻）	講演概要集（オフセット刷）
前刷論文の長さ	本印刷約 3 ページ (6400字以内)	1 論文 1 ページ (約1300字) (図, 写真適宜)
講 演 時 間	講演 15 分, 討論 5 分 (計 20 分)	講演 15 分, 討論 5 分 (計 20 分)
講演後の取りまとめ		講演後 1 カ月以内に後刷講演論文集原稿提出

講 演 申 し 込 み 上 の 注 意 事 項

1. 講演申込み資格

講演者は本会会員に限ります。非会員の方で講演を希望される方は、所定の入会手続を済されたうえ、講演申し込みをして下さい。また共同研究者で非会員の方も入会手続をされるよう希望いたします。

2. 申 込 用 紙

講演申込みは、添付講演申込み用紙をご使用下さい。

第 1 種講演： 黄色申し込み書

第 2 種講演： 橙色申し込み書

3. 申込用紙記載について

- 1) 第1, 第2種とも*印をのぞき(A), (B)の両方にご記入下さい。
- 2) プログラム編成上の参考としますので, 「論文分類欄」に講演内容が下記のいずれに該当するかおよび基礎応用の別をご記入下さい。

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17
原 料	燃 料 ・ 熱	耐 火 物	製 鉄 (<small>ロアロイを含む 特殊製鉄・フェ</small>)	製 鋼 ・ 溶 解	造 塊	塑 性 加 工	熱 処 理	鉄 鋼 の 組 織 ・ 性 質	鑄 物	溶 接 (<small>溶接技術全般</small>)	腐 食 ・ 表 面 処 理 ・ 防 食	分 析	試 験 ・ 検 査 技 術	計 測 ・ 自 動 制 御	I E そ の 他 一 般 技 術	そ の 他

- 3) スライドの要否は該当するものに○印をつけて下さい。
- 4) 講演者には必ず氏名の前に○印をつけて下さい。
- 5) 第2種申込み書の講演内要の要旨は100字を限度としてご記入下さい。

4. 申込みの受理

第1種講演, 第2種講演とも別記申込要領をご覧のうえお申し込み下さい。ただし下記の申し込みは理由の如何にかかわらず, 受けはいたしませんので十分ご注意下さい。

- 1) 所定の用紙以外の用紙を用いた申し込み
- 2) 必要事項が記入されていない申し込み
- 3) 第1種講演で講演論文が添付されていない申し込み
- 4) 単なる書簡または葉書ならびに電報, 電話による申し込み

5. 講演申込み先

東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館 3階
日本鉄鋼協会 編集課
(11月3日より上記に移転します)

第73回講演大会討論会テーマのお知らせ

— 昭和 42 年春季大会 —

第73回講演大会における討論会のテーマ(鉄と鋼8月号, 9月号会告掲載)は下記の通りです。多数会員奮つてご応募下さい。

記

1. 第73回講演大会討論会テーマ

- 1) 鉄鉱石の熱割れに関する問題
(熱割れの機構, 試験法, 対策, 高炉操業におよぼす影響など)
 - 2) 純酸素上吹転炉における脱炭反応とその他の反応
(脱炭, 脱ケイ, 脱リン, 脱ガス反応など)
 - 3) 薄板の深絞り加工性
 - 4) オーステナイトステンレス鋼の高温クリープ中組織変化
 - 5) 鉄鋼の格子欠陥
2. 原稿申込方法 会告N102ページ掲載の第1種講演申込要領をご覧のうえお申し込み下さい。
 3. 原稿締切日 昭和 41 年 11 月 15 日 (火)

I. 第1種講演申込み要領(討論講演原稿を含む)

- 1) 講演申込締切 昭和41年11月15日(火)着信のこと。
- 2) 申込み方法 前記「講演申込み上の注意」をご覧のうえ添付の第1種講演申込み用紙(黄色)に必要事項を記入し、講演論文を添えお申し込み下さい。
- 3) 討論講演原稿 討論講演原稿としてお申し込みの方は、原稿表紙「原稿の種類欄」の右隅に「討論講演」と朱書して下さい。
- 4) 講演時間 1講演につき講演15分、討論5分とします。
- 5) 講演論文原稿 原稿執筆のさいは会告N104ページ掲載の講演論文寄稿規程をよくお読みのうえ、つぎの各項目についても十分ご注意下さい。
- (1) 原稿表紙に必要事項を記入し、原稿用紙には題目、著者名など重複記入しないで下さい。
 - (2) 論文の内容が豊富な場合には、第1報、第2報の分割形式(例参照)としてもさしつかえありません。
(例) 焼入性におよぼす酸素の影響について
(鋼の焼入性に関する研究-I)
 - (3) 英文・和文要旨は原稿枚数には数えません。
 - (4) 章、節などの表わし方は、下記のごとくポイント・システムを用いること。
章 1, 2, 3
節 1-1, 1-2, 1-3
項 1-1-1, 1-1-2, 1-1-3
小見出 (1), (2), (3)
 - (5) 文章は楷書にして、鉛筆書きはさけること。
 - (6) 数字は2字で和文活字の1字分に相当するので表の原稿作成には特に注意のこと。また縦、横のケイも1字分に相当する。
 - (7) 表原稿には図を挿入しないこと。
 - (8) 図の原稿は鮮明なもので規程第15項にしたがつて作図し、方眼状の目盛りを入れること。
 - (9) 講演論文中単なる工場設備、工場建設の記録、製品の紹介にすぎないものは論文原稿として採用しない場合があります。
- 6) 講演論文集 「鉄と鋼」第53年3月号として刊行いたします。
- 7) 講演論文別刷 希望者に部数を20部と限定、有料で作成いたします。
- 8) 講演論文の採否 編集委員会において採用の決定した論文は第53年2月号に発表の講演プログラムにて採用通知にかえさせていただきます。不採用原稿については別途ご連絡いたします。
- 9) 原稿の訂正 昭和41年12月15日以後の原稿修正は印刷作業の都合上お断りいたします。
- 10) 原稿用紙 協会所定の原稿用紙は1冊30円(30枚綴)で頒布いたします。送料下記の通り。
1部 35円, 2部 55円, 3部 75円
4部 85円, 5部 105円

(A) 第 1 種 講 演 論 文 申 込 書

(注 *印以外に明確にご記入下さい)

*受年月日		和文題目	研究 者 名 (講演者○印)
*受番号			
*講番		英文題目	学 位 号
原総枚数	枚		
本枚数	枚	英文題目	氏 名
表数	表		
図数	図	英文題目	論 文 分 類
写真数	葉		
連絡者名		連絡先 (勤務先・所在地)	電話 ()
			基 礎 用

(B)

*受番号		和文題目	勤 務 先	学 位 号	氏 名 (講演者○印)
*講時		英文題目			
*講番					
論分	基礎用				
要 否			講 演 者 名 (ローマ字)		

日本鉄鋼協会誌原稿表紙

* 分類番号		* 昭和 年 月 日 受付			* 掲載号数		第 年 第 号
原稿の種類		講演論文・投稿論文・依頼論文・技術資料・講 議・特別講演・その他					
題 目		和 文					
		欧 文					
著 者 氏 名 (講演者○印)	会員資格	勤 務 先 称 号 氏 名	(ローマ字) (Full name)	原稿枚数	枚		
	会員			表 数		表	
	会員			図 数		図	
	会員			写 真 数		葉	
	会員			鉄と鋼英文誌 掲載希望		有 無	
寄稿者連絡先 および氏名							
発表の方法		昭和 年 月 日・第 回 (支部)講演会発表・その他					
備 考		有 料 別 刷					部

*印は記入せぬこと (協会事務局で記載)

(A) 第 2 種 講 演 論 文 申 込 書

(注 *印以外に明確にご記入下さい)

*受年月日		和文題目	研究者名 (講演者○印)
*受番号			
*講番号		英文題目	学位称号
論文種類	基礎 応用		
要旨			発表場所
連絡者名	連絡先 (勤務先・所在地)	電話 ()	

(B)

受番号	付号	和文題目	勤務先	学位称号	氏名 (講演者○印)
*講時	演間	英文題目	勤		
*講番号	演号		務		
論文種類			先		
スライド (○印)	要		者		
	否		名		
			講		
			演		
			者		
			名		
			(ローマ字)		

II. 第2種講演申込み要領

- 1) 講演申込み締切 昭和41年12月15日(木)着信のこと.
- 2) 申込方法 前記「講演申込み上の注意」ご覧のうえ、添付の第2種講演申込み用紙(橙色)に必要事項ご記入のうえ、25円切手(本会所定原稿用紙送料)を添えお申し込み下さい.
- 3) 講演時間 1 講演につき講演15分、討論5分

第2種講演概要の提出について

- 1) 原稿締切日 昭和42年2月15日(水)着信のこと.
- 2) 講演概要 講演概要は前刷としてオフセット印刷いたします.
(1) 講演申込者に所定のオフセット用原稿用紙をお送りいたしますので、原稿用紙1枚(表、図、写真を含み1300字)墨または黒インクで明瞭にお書き下さい.
(執筆案内は原稿用紙送付の際同封いたします)
(2) 講演概要は読者が、研究の内容、成果などを理解しやすいようにお書き下さい.
- 3) 講演前刷 「講演概要集」として発行いたします.
- 4) 概要講演の投稿 第2種講演は事後討論を含めたその内容を講演論文として会誌に掲載いたしますので、5月10日までに協会編集課宛原稿をご提出願います.
この論文は「講演論文寄稿規程」に準じてご執筆下さい.

「鉄と鋼」講演論文寄稿規程

講演論文は本協会会員が本協会講演大会においてその研究結果を発表するために、その講演大会で発表する予定の研究結果を講演論文としてあらかじめ協会に提出し、講演論文集に掲載されたものである。講演論文の内容は著者の独創的研究結果で、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が正確に記述されているものとし、講演論文の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙 8 枚以上 16 枚まで、図・写真はあわせて 5 枚以内**として、規程の締切日までに提出しなければならない。

- (1) 講演論文は、本誌に載せる前にほかの学協会の講演会において発表されないものに限る。
- (2) 講演論文は、年 2 回（春、秋）開催される本協会講演大会において発表する予定の研究結果をまとめ、本協会によりそのつど定める期限内に協会へ提出されるものとする。
- (3) 講演論文の内容は著者の独創的寄与を主体とするもので、少なくとも研究目的、研究方法、研究結果が明確に記述されているものとする。内容が豊富な場合には、第 1 報、第 2 報の分割形式（例参照）としてもよい。

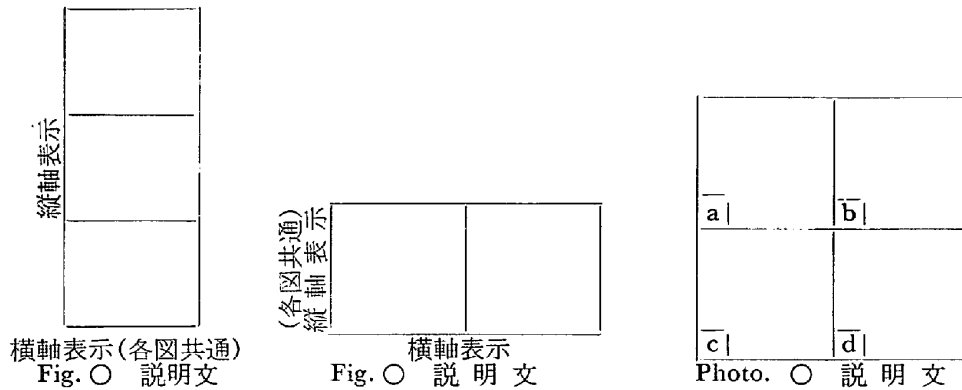
（例） 焼入性におよぼす酸素の影響について
（鋼の焼入性に関する研究—Ⅱ）

- (4) 原稿の表紙および原稿用紙は本協会所定のものを用いる。原稿の表紙には所定事項を確実に記入し、原稿は左横書きとする。
- (5) 平易な口語体を用い、漢字は特殊な専門語のほかは当用漢字を用い、かなは新かなづかい（第 4 表の例を参照）によること。
- (6) 講演論文は必ず英文題目、100 語以内の英文要旨、英文要旨の和訳文を添付する。英文要旨は編集委員会で審査の結果、Transactions I. S. I. J. に掲載されることがあるので、それによって主要成果がわかる程度に書かれていること。
- (7) 講演論文の原稿の長さは、**図・写真・表を含んで本協会所定の原稿用紙 8 枚以上 16 枚までの範囲内に限定し、図および写真はあわせて 5 枚以内**とする。図および写真の占める面積については、下記の (15) 項を参考にして正しく算定し、原稿枚数が規定外にならないようにする。また同一の事項を図・表両方で表わさないこと。
- (8) 文章には、最も読みやすくするために句点（，）および終止点（。）を適当に付ける。いずれの場合にも原稿用紙の 1 こまをあてる。
- (9) 数量を表わす場合にはアラビア数字を用い、単位は原則として C G S 単位系を用いるが、電磁気量の場合には M K S 単位系を用いてよい。単位の略記号は第 1 表の例に従う。周知でない単位には略記号を用いないこと。
- (10) 外国語の固有名詞および訳語が確定していない外国語の術語は原則として原語で書くが、周知のものはかたかな書きとする。なお必要な場合は原語を書き添える。元素名、合金名、化合物名はなるべく化学記号によつて示すが、周知の合金名、化学記号表示を行なう必要はない。（第 2 表の例参照）
- (11) 英字、数字、ギリシャ文字はていねいに記し、混同しやすい文字はとくに注意して書くこと。英字の大文字、小文字、ギリシャ文字で混同しやすい文字はとくに赤字で④、⑤などと傍記する。ゴチック、イタリックを指定するときは、その文字の下にそれぞれ——、~~~~を付けること。添字の上ツキ、下ツキは正確に記すこと。
- (12) 数式は印刷に便利なように注意し、 b/a 、 $(a+b)/c$ のように、不明確にならない程度になるべく少ない行数で表わすように書く。
- (13) 表はなるべく本文中に挿入すること。1 つの表の大きさは、会誌の 1 ページの面積を考慮し、横の刷り上がり寸法 7 cm または 14.5 cm、縦の刷り上がり寸法 18 cm 以内におさまるようにする。
- (14) 図・写真・表の説明は英文とする。写真には必ず倍率を記入する。
- (15) 図および写真は、横の刷り上がり寸法が下記のいずれかの寸法となるように、刷り上がり寸法の 2 ~ 3 倍大とし、下記の縮尺記号を記入しておくこと。

(イ) 横 7 cm (縮尺 A). (ロ) 横 14.5 cm (縮尺 B)

尺刷り上がり後の縦の寸法は 18 cm 以内とする。

図および写真の横の縮尺が上記のように定まれば、縦の刷り上がり寸法も定められるから、図および写真の占める面積を算出し、下記の規準に従つてその面積に相当する字数を求め、原稿の長さが本規程 (7) の



範囲外にならないようにする。

縮尺Aの場合、刷り上がり面積 42 cm² は 400 字、すなわち所定原稿用紙 1 枚に相当する。

縮尺Bの場合、刷り上がり面積 87 cm² は 800 字、すなわち所定原稿用紙 2 枚に相当する。

図および写真を並列して 1 個に取り扱うことができるのは、上記の数例の場合に限る。

図は白紙、オイルペーパー、または青色方眼紙を用いて書き、図および図中の文字は縮尺を考慮して十分な大きさおよび間隔をもつて正確に書くこと。

- (16) 図および写真は散逸を防ぐため、原稿用紙または適当な大きさの台紙に貼付し、右下隅に著者名を記入すること。図・写真は原稿本文中に挿入せず別紙とし、原稿中には右欄外にその挿入箇所を指定する。原稿本文中は図・写真挿入箇所を空白にあけないこと。

- (17) 参考文献は、通し番号を付け、本文の最後の一括して番号順に示し、本文中における文献引用箇所にはその文献の番号（かっこ付き）を上つき小数字で示す。

参考文献は著者名：雑誌名、巻数（発行年度）、号数、ページ数の順に記載すること。

（例） R. K. GLASS: Blast Furn. & Steel Plant, 46 (1958)2, p. 198

雑誌名は第 3 表の略記例に従う。単行書は、著者名：書名、（発行年度）、ページ数、[出版社名]の順に記載する。

第 2 報以後の講演論文には必ずその前報を参考文献として示すこと。

- (18) 寄稿された講演論文の受理年月日は、本協会で定めた講演論文原稿締切日とする。
- (19) 寄稿講演論文は編集委員会において審査される。下記の各項のいずれかに該当するものは受理されない。
 - (a) 学術および技術への寄与がほとんど無いと考えられる場合
 - (b) 著者の独創的寄与がほとんど含まれていない場合
 - (c) その講演論文に直接関連するほかの重要な研究論文を参考文献として示していない場合
 - (d) 寄稿規程の (6), (7), (15), に確実に従っていない場合およびそのほかの規定に著しく違反する場合
 - (e) 内容に顕著な誤りが含まれている場合
 また編集委員会において、内容の一部を修正、削除することがある。
- (20) 支部講演会における発表は、講演論文の形では受理しないで、早期の誌上発表を希望するときは研究速報の形式で原稿を提出すること。
- (21) 講演論文の原稿は返却しない。
- (22) 講演論文の別刷は部数を 20 部に限定、希望者に有料で作成する。

第1表 単位およびその記号の例

量	単位の名称	単位記号	量	単位の名称	単位記号
角 度	ラジアン	rad	工 率	キロワット	kW
	度°		ワット	W
長 さ	分秒'	動 力	エルグ毎秒	erg/sec
	キロキートル	km		英馬力	IP
	メートル	m	温 度	セツ氏温度°C
	センチメートル	cm		絶対温度°K
	ミリメートル	mm	熱 量	ジュール	Joule, (J)
	ミクロン	μ		キロカロリー	kcal
オングストローム	\AA	カロリー	cal		
キロX線単位	kX	熱伝導度	カロリー毎センチメートル度	cal/(sec. cm. deg)	
面 積	平方メートル	m ²	比 熱	ジュール毎キログラム度	Joule/ (kg · deg)
	平方センチメートル	cm ²		カロリー毎グラム度	cal/g · deg
	平方ミリメートル	mm ²	熱 容 量	ジュール毎度	Joule/deg
体 積	立方メートル	m ³	電 流	アンペア	A
	立方センチメートル	cm ³ , cc		ミリアンペア	mA
	立方ミリメートル	mm ³	電 流 密 度	アンペア毎平方メートル	A/m ²
	キロリットル	kl		電界の強さ	ボルト毎メートル
	リットル	l	電 起 電 圧 力	キロボルト	kV
	ミリリットル	ml		ボルト	V
時 間	年	year(年)	ミリボルト	mV	
	日	day(日)	電 気 容 量	ファラッド	Farad, (F)
	時	hr		電 気 抵 抗	オーム
	分	min	マイクロオーム		$\mu\Omega$
秒	sec	コンダクタンス	モーム	\mathcal{O}	
毎分回転数	回毎分	rpm	インダクタンス	ヘンリー	Henry, (H)
速 度	キロメートル毎時	km/hr	電 力	キロワット	kW
	センチメートル毎秒	cm/sec		ワット	W
加 速 度	メートル毎分	m/min	磁界の強さ	エルステット	Oe
	センチメートル毎秒毎秒	cm/sec ²		アンペア毎メートル	A/m
周 波 数 振 動 数	サイクル毎秒	c/sec	磁 束	ウェーバ	Wb
	キロサイクル毎秒	kc/sec		マックスウェル	Maxwell (M)
	メガサイクル毎秒	MC/sec	磁束密度	ウェーバ毎平方メートル	Wb/m ²
質 量	トン	t	ガウス	G	
	キログラム	kg	キロガウス	kG	
	グラム	g	組 成	容積パーセント	vol%
	ミリグラム	mg		重量パーセント	wt%. %
密 度	グラム毎立方センチメートル	g/cm ³	原子パーセント	at%	
	ニュートン	N	モル濃度	モル毎リットル	mol/l
ダイソン	dyn	エ ン エ ル ジ ー		ジュール	Joule
重量キログラム	kgw		エルグ	erg	
応 力 圧 力	キログラム毎平方ミリメートル	kg/mm ²	重量キログラム・メートル	kgm	
	グラム毎平方センチメートル	g/cm ²	キロワット時	kWh	
	バール	bar			
	ミリバール	mbar			
エ ン エ ル ジ ー 仕 事	気圧	atm			
	水銀柱ミリメートル	mmHg			

第2表 論文中の術語の書き方例

1) 表題に用いる術語は不明瞭な省略語は用いない。

たとえば“……………脱酸，作用脱硫……………”とし，……………脱O，脱S……………”は不可

2) 本文にて最初に述べる術語は，内容の十分理解できる親切な表現を用いること。

たとえば“……………生じた Hercynite($\text{FeO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3$)は……………”

“平衡定数 K' ，Gibbs の自由エネルギー G は……………”

“マグネタイト (Fe_3O_4) を N_2 を含む CO で還元した結果， Fe_3O_4 は……………”

“シリカ・カプセルをかぶせた低炭素鋼板を管状炉内で加熱したが，ほとんど脱炭しなかった。”

3) 本文にて繰返し用いる場合は化学記号，その他のすでに認められた省略記述でよい。

たとえば溶鋼中の成分（無限稀釈液標準の場合）は \underline{C} ， \underline{O} で表わし

〃 〃（純液規準の場合）は $[\text{Ni}]$ ， $[\text{Fe}]$ など表わす

また，たとえば，文中に「オーステナイト」の語が多数出てくるときは，その最初のところで「オーステナイト (γ)」として以下「 γ 」を用いてよい。

4) 学術技術の進歩とともに日本語訳では十分表現できない言葉が次第に増してきているから，下記の例のようにカナ書きとして術語を表わす。しかし意味のピッタリした簡明な日本語訳のある場合は慣用に従つてなるべく日本語を書くことを原則とする。次に例を示す。

i) カナ書きが妥当と思われるもの

ガス，エネルギー，プロパン
 リムド鋼，キルド鋼
 ポテンシャル
 窒化アルミニウム AlN
 ニオブ，タンタル
 グラファイト
 (エレクトロンプロブ) X線マイクロアナライザー
 ベアリング，または軸受

備 考
 日本語になりきつている
 慣用の期間が長く，ピッタリしたよい訳がない
 ピッタリした日本語訳がなく慣用している
 窒化アルミの形は用いない
 または Nb，Ta（通常 Cb は用いない）
 または黒鉛
 略記としては EPMA，XMA などが慣用
 “メタル”は不可（混同しやすい）

オーステナイト，フェライト，ベイナイト，インゴット，ビレット，フープ，パス，スケール，ステンレス鋼，クリープ，プレス，ロール，ブルーム，ブローホール，キャンパー，カーボメーター，セメンタイト，板のクラウン，フェロアロイ，フランジ，ガイド，ジョミニー試験，マクロ腐食，マンドレル，マルテンパー，マルテンサイト，ノッチ，オーバル，ポリゴナイズ，スクラップ，セミキルド鋼，シャー，スラブ，スラッグ，ストリップ，タンデムミル，ピッカース硬さ(硬度計)

鉄冶金慣用語の例

ii) 原語を一度書き添えることが妥当と思われるもの

フォーミング(foaming) フォーミングは forming もあり混同することもある
 パージング(purging)
 フラッターリング(fluttering)
 スカルピング(scalping) } 日本語に十分慣用されていない

iii) 省略的記述の例

78Ni-22Fe 合金 18-ステンレス鋼の場合は慣用によつて Cr，Ni 省略
 Ni-Cr-Mo 肌焼鋼
 Ferro-Si-Zr フェロアロイの場合を表わす
 5% nital, picral など 化学記号表示の必要はない
 JIS-SUS 31 AISI，DIN，En その他同様
 U.S. Pat. 1,932,566 米国の慣例による
 Hb 100, HRC 50 ブリネル，ロックウェルC硬度値
 HNO₂ (5%) 分析の場合など“硝酸水溶液”に慣用

付表文献略記例

雜誌名	略記	雜誌名	略記
Acta Metallurgica	Acta Met.	Journal of the Iron and Steel Institute	J. Iron & Steel Inst. (U. K.)
American Foundrymen's Society, Preprint	Amer. Foundrym., Preprint	Journal of Metals	J. Metals
American Institute of Mining, Metallurgical and Petroleum Engineers,		Les Mémoires Scientifiques de la Revue de Métallurgie	Mém. Scient., Rev. Mét.
— Blast Furnace, Coke Oven & Raw Materials Committee, Proceedings	Proc. Blast Furn.	Metal Finishing	Metal Finishing
— The Electric Furnace Committee, Proceedings	Proc. Electr. Furn.	Metal Finishing Journal	Metal Finishing J.
National Open-Hearth Steel Committee, Proceedings	Proc. Open-Hearth	Metal Progress	Metal Progress
American Iron and Steel Institute, — Annual Statistical Report	Amer. Iron & Steel Inst. —, Ann. Stat. Rep.	Metal Treating	Metal Treating
— Contribution to the Metallurgy of Steel	—, Cont. Met. Steel	Metalloberfläche	Metalloberfläche
American Society for Metals, Preprint	Amer. Soc. Metals, Preprint	Metallurgia	Metallurgia
American Society for Testing Materials, — Preprint	Amer. Soc. Test. Mat., —, Preprint	Metallurgia Italiana	Met. Ital.
— Special Technical Publication	—, Spe. Tech. Pub.	Metallurgie et la Construction Mécanique	Mét. et Constr. Mécan.
Archiv für das Eisenhüttenwesen	Arch. Eisenhüttenw.	Modern Castings	Mod. Castings
Blast Furnace and Steel Plant	Blast Furn. & Steel Plant	Revue de Métallurgie	Rev. Mét.
British Iron and Steel Research Association, Reports	Brit. Iron & Steel Res. Assoc., Rep.	Schweissen und Schneiden	Schweissen u. Schneiden
British Welding Journal	Brit. Welding J.	Sheet Metal Industries	Sheet Metal Ind.
Centre de Documentation Sidérurgie, Circulaires d'Informations Techniques	Centre Doc. Sidér., Circ. Inform. Tech.	Stahl und Eisen	Sahl u. Eisen
Corrosion	Corrosion	Stal	Stal
Foundry	Foundry	Steel	Steel
Foundry Trade Journal	Foundry Trade J.	Steel Processing	Steel Process.
Giesserei	Giesserei	Transactions of the Metallurgical Society, American Institute of Mining, Metallurgical & Petroleum Engineers	Trans. Met. Soc., Amer. Inst. Min., Met. & Pet. Eng.
Iron Age	Iron Age	Transactions of the American Society for Metals	Trans. Amer. Soc. Metals
Iron and Coal Trades Review	Iron & Coal Trades Rev.	Transactions of the Institute of Metal Finishing	Trans. Inst. Metal Finishing
Iron and Steel	Iron & Steel	Transactions of the Institution of Mining and Metallurgy	Trans. Instn. Min. & Met.
Iron and Steel Engineer	Iron & Steel Eng.	Transactions of the Society of Automotive Engineers	Trans. Soc. Auto. Eng.
Iron and Steel Institute, Special Reports	Iron & Steel Inst., Spec. Rep. (U. K.)	United States Bureau of Mines, — Bulletin	U. S. Bur. Mines. —, Bull.
Jernkontrets Annaler	Jernkont. Ann.	— Information Circular	—, Inf. Circ.
Journal of the Institute of Metals	J. Inst. Metals	— Mineral Industry Survey	—, Miner. Ind. Survey
		— Minerals Yearbook	—, Miner. Yearbook
		— Report of Investigations	—, Rep. Invest.
		Welding Journal	Welding J.
		Werkstoffe und Korrosion	Werkstoffe u. Korrosion
		Wire and Wire Products	Wire & Wire Products
		Zeitschrift für Metallkunde	Z. Metallkunde

第4表 かながきの例

可	不可	可	不可	可	不可	可	不可
明らか	明か	かりに	仮に	可それぞれ	夫々	ほかに	外は、他に
あたかも	恰も	きわめて	極めて	ただ	唯	ほとんど	殆ど
扱う	扱かう	……くらい	……位	ただし	但し	ほど	程
あらかじめ	予め	ここ	此所、茲	たとえば	例えば	ほぼ	略々
表わす	表す	……こと	……事	ため	為	ますます	益々
ある	在る、有る	異なる	異なる	だいたい	大体	また	又、亦
あるいは	或は	ことに	殊に	ちなみに	因みに	まだ	未だ
(と)いう	(と)言う	これ、この	之、此の	ちようど	丁度	まちがい	間違い
いかなる	如何なる	ごとく	如く	ついて	就て、付いて	まで	迄
いずれ	何れ、いづれ	ごとに	毎に	ついに	遂に	みなす	見做す
いつそう	一層	さしつかえ	差支へ	(の)とおり	(の)通り	(して)みる	(して)見る
(して)	(して)	ささえる	支える	(する)とき	(する)時	向かう	向う
いただく	頂く、戴く	しかし	併し、然し	……ところ	……所、処	明りよう	明現
いつたん	一旦	しかも	而も、然も	伴う	伴なう	もし	若し
(して)いる	(して)居る	したがって	従て……	ともに	共に	もちろん	勿論
いわゆる	所謂	……に従う	…にしたがう	ないし	乃至	…(し)やすい	…(し)易い
おいて	於て	しだいに	次第に	なお	尚、猶	やはり	矢張り
おそい	遅い	しばしば	屢々	なぜ	何故	やや	稍
遅れる	おくれる	……しまう	…了う、終う	など、ら	等	ゆえに	故に
おのおの	各々	十分に	充分に	ならびに	並びに	ようす	様子
おもな	主な	少ない	少い	なるべく	成可く	ように	様に
および	及び	すなわち	即ち、則ち	はなはだ	甚だ	ようやく	漸く
かえつて	却て	すべて	総て、全て、 凡て	ページ	頁	わかる	判る、分る、 解る
かかわらず	拘らず	ずつ	宛、づゝ	ほう(の)	方(の)	わたつて	亘つて
かつ	且	その	其の				
かなり	可成						

技術講座開催のお知らせ

本会では、会員はじめ関係各位のご要望により、鉄鋼界にあつて製造、研究の業務に携わる人々が常識として把握しなくてはならないテーマを広く取り上げ、それぞれの権威者から最近の動向、発展の方向についてお話しを願い、討論を行なうために日本鉄鋼協会技術講座を開催してまいりました。

第6回、第7回の技術講座を下記の通り開催することになりましたので多数会員奮つてご来聴下さるようご案内申し上げます。(聴講無料、テキスト代実費)

第6回 技術講座

日 時 昭和41年10月20日(木) 9:30~17:00

場 所 大阪市東区南本町 5-16

(地下鉄梅田駅より難波方面行に乘車、本町にて下車)

演題および 1. 将来の製鉄法について 東京大学教授 雀部 高雄君

講 師 2. 合金元素選定の考え方について 日本特殊鋼(株)技師長 佐藤 忠雄君

注) なお8号会告にて開催日を10月19日(水)とご案内いたしましたが、上記のごとく10月20日(木)に変更いたしましたのでお間違いなくご聴講下さるようお願いいたします。

第7回 技術講座

“鉄鋼製錬に関する熱力学”

日 時 昭和41年11月16日(水)、17日(木) 9:30~17:00

場 所 大和証券ホール

東京都中央区八重洲 1-2-4

(東京駅八重洲口北口下車徒歩5分 } 呉服橋交差点角)
(都電・呉服橋、地下鉄・日本橋下車)

プログラム

第1日(11月16日)

9:30 熱力学概況 名古屋大学工学部教授 坂尾 弘君

13:00 基礎反応の平衡関係成分の活量等の演習
東北大学選鉱製錬研究所教授 大谷 正康君

第2日(11月17日)

9:30 反応速度論概況 名古屋大学工学部教授 森 一美君

13:00 基礎反応の反応機構律速段階 九州大学工学部教授 川合 保治君

溶鉄、溶滓の物性に関する討論会 (第1回)

“溶鉄、溶滓の密度および粘性”

上記のテーマにしたがい、研究の現状、問題点などについて日本鉄鋼協会、日本金属学会、日本学術振興会共催の討論会を開催いたします。興味をもたれる方は下記によりご参加下さるようご案内いたします。

記

日 時 昭和41年10月20日 (木) 10:00~18:00
場 所 大阪市西区土佐堀舟町 11-1 住友クラブ

プ ロ グ ラ ム

- | | | |
|---|-------|-----------------|
| 1. 開会挨拶 | | 斎藤恒三君 |
| 2. 講演 | | |
| 液体における密度と粘性に関連する基礎理論 | 北大理丹羽 | 貴知蔵君 |
| 3. 討論 | | |
| I (10:40~12:10) 実験方法について | | |
| I-1 熔融金属の密度測定法について | 東北大選研 | 斎藤恒三君 |
| I-2 熔融スラグの密度測定法について | 阪大工 | 足立彰君 |
| I-3 熔融金属の粘度測定法について | 東北大選研 | 斎藤恒三君
渡辺偽六君 |
| I-4 熔融スラグの粘度測定法について | 名工試 | 養輪晋君 |
| II (13:00~16:30) | | |
| II-1 熔融鉄合金の粘性に関する研究について | 九大工 | 川合保治君 |
| II-2 熔融鑄鉄の粘性に関する研究について | 日鋼室蘭 | 前川静弥君 |
| II-3 熔融鉄合金の密度に関する研究について | 九大工 | 八木貞之助君
小野陽一君 |
| II-4 熔融スラグの密度に関する研究について | 阪大工 | 足立彰君
荻野和己君 |
| 休 憩 | | |
| II-5 熔融塩の粘性に関する研究について | 京大工 | 松村嘉高君 |
| II-6 熔融スラグの粘性に関する研究について | 東北大選研 | 斎藤恒三君
白石裕君 |
| II-7 CaO-SiO ₂ -Al ₂ O ₃ 系の粘性と電気伝導度に及ぼす Na ₂ C および Na ₂ SiF ₆ の影響 | 名工試 | 養輪晋君
加藤誠君 |
| 4. 総括討論 (今後の研究方針の検討) | | |

第2種講演概要の講演論文投稿について

第72回講演大会において発表された第2種講演概要は、事後に講演に対する討論を含むその内容を講演論文原稿として、下記によりご提出いただくことになっております。

なお、論文は編集委員会の審査を経て、会誌「鉄と鋼」(号数未定)に掲載いたします。

記

- 原稿締切日 昭和41年11月10日 (木)
- 執筆要綱 鉄と鋼寄稿規程「講演論文寄稿規程」に準じてご執筆下さい。なお投稿の際原稿表紙に「第72回・第2種講演」と「講演番号」を朱書して下さい。
- 送付先 東京都千代田区大手町 1-5 経団連会館3階
日本鉄鋼協会編集課 Tel 279-6021
(11月3日より上記に移転いたします)

学 協 会 記 事

第17回塑性加工シンポジウム

— テ ー マ : 精 密 圧 延 —

主 催 日本塑性加工学会 共催 日本機械学会
 日 時 昭和 41 年 11 月 17 日 (木) 9:00~17:00
 金 場 日本都市センター本館会議室 (東京都千代田区平河町 2-6)
 講 演 精密圧延の諸問題 ほか 6 件
 テサスト 申込締切 11 月 10 日 (木), 代金 会員 500円, 非会員 800円

第 17 回 塑 性 加 工 連 合 講 演 会

共 催 日本機械学会, 日本鉄鋼協会, ほか 7 学協会
 日 時 昭和41年11月18日(金), 19日(土) 9:20
 会 場 日本都市センター別館第1, 2 会議室 (東京都千代田区平河町2-6)
 講 演 液体パルジ試験による薄板の張出性に関する検討 ほか69件
 前 刷 申込締切 10月29日(土), 代金 1000円
 申 込 先 東京都港区赤坂4-1 24号 (日本規格協会ビル) 日本機械学会

第 13 回 腐 食 防 食 討 論 会

共 催 日本化学会, 日本鉄鋼協会ほか
 期 日 11月15日(火), 16日(水), 17日(木), 18日(金)
 会 場 愛媛大学工学部 (松山市文京町 3)
 主 題 特殊金属材料の腐食
 冷却水による腐食
 そのほかに特別講演会, パネルディスカッションが行なわれます。